

登録日時	2010 12/28	登録番号	033
行動チーム名	巧水(たくみ)スタイル推進チーム		
行動主体	<p>全体推進リーダー：独立行政法人 建築研究所 上席研究員 山海 敏弘氏(調整中)</p> <p><産>日本衛生設備機器工業会、日本バルブ工業会(調整中) など</p> <p><学>・山海 敏弘氏(独立行政法人 建築研究所 上席研究員)</p> <p>・坂上 恭助氏(明治大学工学部建築学科 教授 兼 社団法人 空気調和・衛生工学会 節水便器による環境負荷削減研究小委員会 主査)</p> <p>・飯尾 昭彦氏(日本女子大学家政学部住居学科 教授 兼 社団法人 空気調和・衛生工学会 給排水衛生設備委員会 委員長)</p> <p><官>国土交通省水資源政策課、経済産業省日用品室、高松市(調整中)、松山市(調整中)、福岡市(調整中) など</p>		
行動内容	<p>気候変動による渇水リスク増大のおそれや、二酸化炭素排出量削減の必要性から、「水を賢く使う社会」への転換が必要とされている。</p> <p>2010年7月30日開催の「水の週間記念シンポジウム」において、節水型ライフスタイル普及のため、「巧水(たくみ)スタイル」をキーワードに産学官連携の取り組みを進めていくことが提案された。</p> <p>巧水(たくみ)スタイルは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国民ひとりひとりが、水を大切にする意識を持ち、 ・国民の節水意識の向上を図るとともに、 ・節水機器・技術の普及を図る <p>ものと考えており、このため、以下の活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巧水(たくみ)スタイルの普及・啓発 <p>節水意識の啓発を行うコミュニケーション活動を行う。具体的には、「水の週間記念シンポジウム」などのイベントをはじめ、様々な発信機会を捉えて全国各地で講演活動を行うなど、「節水意識」が向上・定着するよう展開していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・節水機器の普及 <p>節水機器の普及方策を検討する。 海外や地方自治体の先進事例や現状の課題を共有し、解決策を検討する。</p>		
課題分析	<ol style="list-style-type: none"> ① 「水は無限、水はタダ同然」という意識が強い。 ② 節水技術の進歩は目覚ましいが、水回りの機器更新サイクル期間が長く、家庭には節水性能の高くない機器が多数存在している。 ③ 節水機器普及施策は一部自治体や業界の取り組みに限られており、国レベルの動きになっていない。 ④ 節水機器・技術を普及させるための業界横断的な組織がなかったため、節水の必要性訴求が進んでいない。 ⑤ 米国など海外ではすでに実施されている節水をキーとした体系的なインセンティブプログラムが国内に存在しない。 		
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・2010年7月30日開催の「水の週間記念シンポジウム」の提案を踏まえ、チームを設立。 ・トイレや水栓を当面の活動対象とするが、今後、行動主体の拡大を図り、節水関連製品全般への波及を目指す。 		